日本海ブロック試験研究集録
水産庁　日本海区水産研究所
第 36 号，　37 ～ 38，1997

冬季の西日本太平洋側および薩南海域における スルメイカ稚仔の採集方法の検討（要旨）

Examination of sampling methods for paralarvae of *Todarodes pacificus* in waters off Pacific side of western Honshu, Shikoku and southern Kyushu in winter

中村　好和[1)]・John R. BOWER[2)]・森　　賢[1)]
Yoshikazu NAKAMURA[1)]・John R. BOWER[2)]・Ken MORI[1)]
[1)] 北海道区水産研究所
[2)] 北海道大学水産学部

目　　的

太平洋のスルメイカ資源は近年増加傾向にあり，その資源評価・漁業管理において，稚仔を定量的に把握することは重要であると考える．そこで，スルメイカ稚仔の定量的把握に適した採集方法を検討するために，太平洋スルメイカの大部分が発生すると推定される冬季の西日本太平洋側および薩南海域で，２つの採集方法について同一地点での繰り返し曳網を行い，採集個体数の変動などを調べた．

方　　法

1995年２月２日～２月11日に，西日本太平洋側および薩南海域の13調査地点（図１）で，改良型ノルパックネット（口径45cm，網目0.335mm）の水深150mからの鉛直曳きとボンゴネット（口径70cm，網目0.334mm）の斜め曳き（最大水深の目安を100mとする）を，それぞれ１調査地点につき10回ずつ行った．ボンゴネットについては，毎回の曳網開始位置を同じにするために曳網終了後，開始位置まで引き返して繰り返し曳網を行った．

結　　果

改良型ノルパックネットでは，６地点でスルメイカ稚仔が採集されず，残り７地点での１曳網当たりの採集個体数の範囲，各地点での平均は，それぞれ０～６尾，0.1～1.3尾であった（図２）．

各地点での濾水量（1000㎥）当たりの採集個体数の平均と変動係数は，それぞれ4.2～54.5尾，81～316％であった（図３）．一方，ボンゴネットでは，すべての地点でスルメイカ稚仔が採集され，１曳網当たりの採集個体数の範囲，各地点での平均は，それぞれ０～243尾，0.1～184.7尾であった．各地点での濾水量（1000㎥）当たりの採集個体数の平均と変動係数は，それぞれ0.03～69.4尾，26～316％であった．

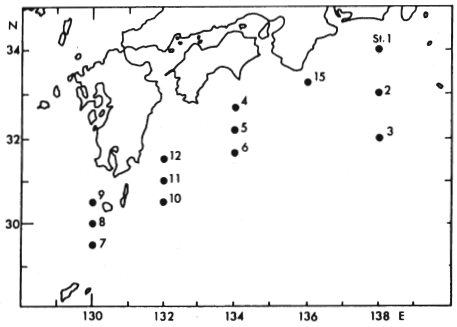

図１　調査地点位置及び地点番号
St.13,14は欠測．

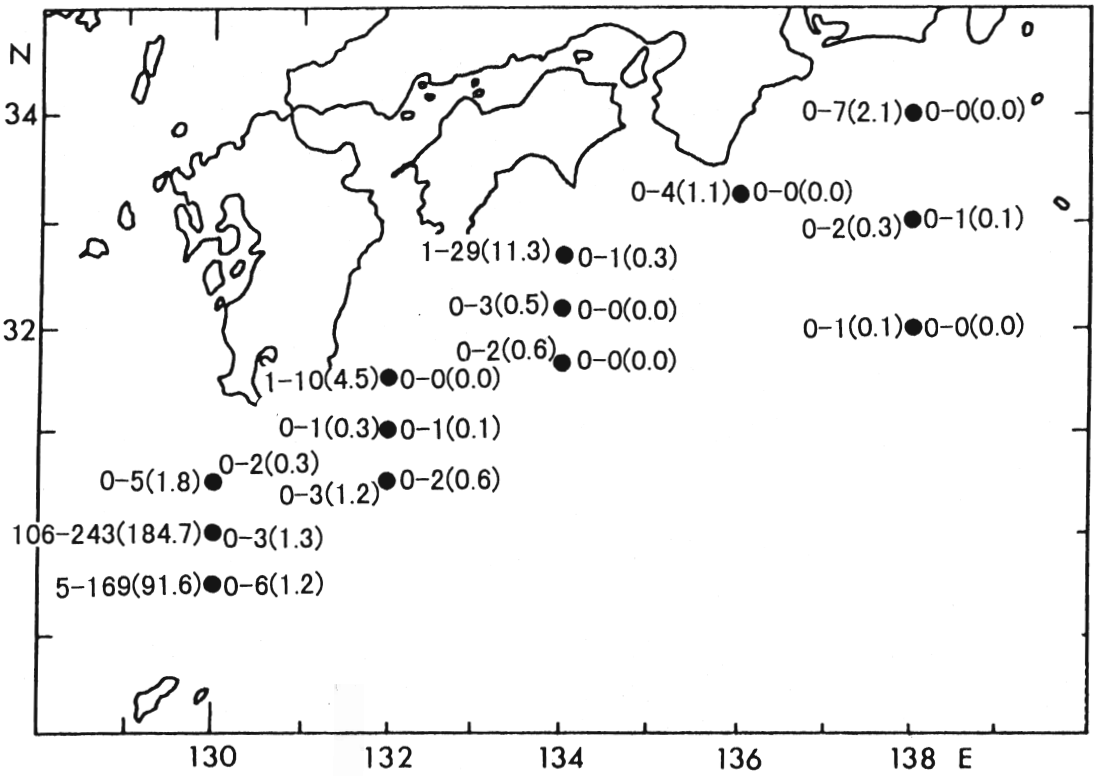

図２　改良型ノルパックネット及びボンゴネットでの１曳網当たりスルメイカ稚仔採集個体数
各地点の右側の数字が改良型ノルパックネット，左側がボンゴネットによる
数字は，10回曳網の中での，最小－最大（平均），をそれぞれ示す。

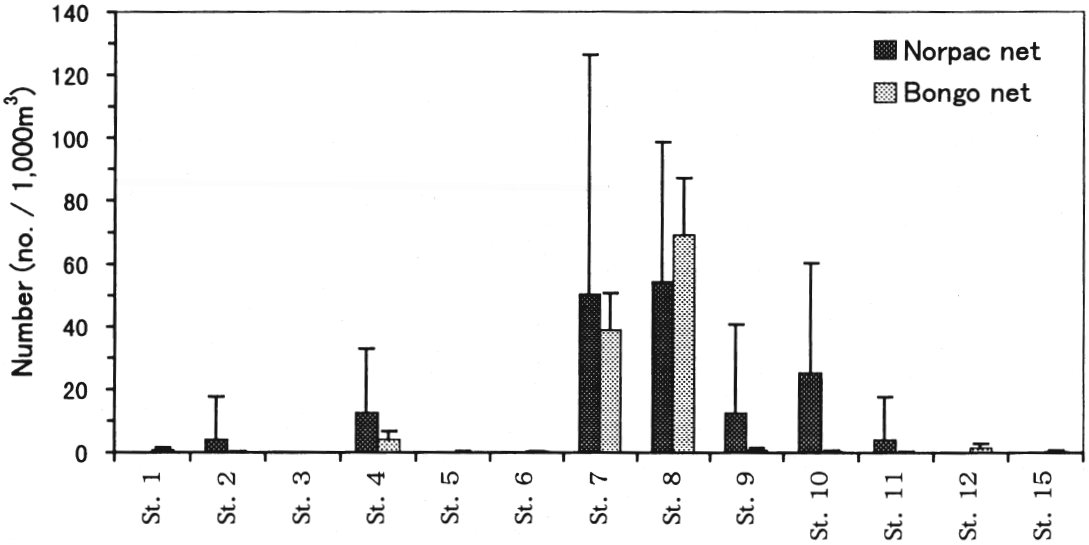

図３　改良型ノルパックネット及びボンゴネットでの濾水量（1000㎥）当たりスルメイカ採集個体数の平均と標準偏差